

平成 28 年度 事業報告書

特定非営利活動法人 志木総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ
(NPO 法人 クラブしっきーず)
理事長 増田 三枝子

1. 事業の成果

クラブしっきーずは、文部科学省が策定したスポーツ基本計画に掲げられた『総合型地域スポーツクラブ』として平成 12 年に発足、平成 14 年に NPO 法人の認証を受けた。

当初、宗岡三小ボランティアルーム内にあった事務局は、法人認証後に初代理事長宅へ移り、平成 20 年には組織体制の大きな変革を経て『まちづくり NPO』として空き店舗活用の“ステーション”を開設。法人 10 年目に、3 軒目となる空店舗に移転し、クラブハウス機能を合わせ持つ市民交流の場「まちの縁側」を埼玉県 NPO 基金の助成により整備。設立後 17 年目の現在、他に類をみない「多世代・多様な福祉活動拠点」として、安定した活動が継続できている。

活動の目的は、世代や障がいの有無を問わず地域に暮らすすべての人に対して参画を促し、スポーツ・レクリエーション及び文化活動を実施し、それを通して心の交流を図ることである。それは、まさに「スポーツと福祉とが融合する時代」を体現するチャレンジである。生活圏域を意識して取り組んだ結果、会員 150 名程の小さな地域スポーツクラブが、埼玉県シラコバト長寿社会福祉基金・埼玉県 NPO 基金・埼玉県共同募金会（あかいはね）・スミセイコミュニティスポーツからの助成を受けて事業展開できたことは、大きな成果であった。特に、あかいはねとスミセイについては、「地域における孤立防止」に的をしばった重点助成であり、3 ヶ年継続によりじっくり実践できる。

さて、長い間介護予防事業として実施してきたモーニング（太極拳・健康体操）プログラムは、シニアの自主運営サークル化を選択した。クラブが交流のきっかけや地域での人間関係をつくり、シニアが健康をテーマにサークルを自主運営する、という初期の目的は達成したといえよう。

そこで、会員数が増えている子どもや若い世代がシニアと共に楽しめるプログラムを企画し、クラブ組織の新陳代謝をも念頭に実践した。志木市委託市民交流事業「うごいてうたってほとびる心」（おんがく&すぽーつレク）や「オヒマチ」（季節の食事会）などは、より多様性が増した。国が示す新しい総合事業にある『地域住民による通いの場』は、共生型の方向性が示され、人々を区別する既存の枠組みを超える「しっきーず方式」はこれに合致する。

平成 28 年度は、定期・スクール・イベントプログラムに加え、他団体主催事業への協力も多く、参加者数は実に 1 万名を超え、最大となった。多方面から高い評価をいただき、県内外での事例発表の機会にも恵まれ、大学生や関係機関のみならずアジア近隣諸国スポーツ指導者の視察受け入れなど、クラブメンバーにとって自らを客観視する良い機会を得ることができた。

まちに暮らすひとと共に、お互いさまのまちづくりを志すというクラブメンバーの自覚と責任感。会員が所属するクラブに持つ誇りや愛着心、すなわち『メンバープライド』の醸成が感じられた一年であった。